

あなたの半生 歌と映像に

南足柄の団体ビデオ制作

障害者支援や就農支援に取り組み一般財団法人「春めき財団」（南足柄市）が、依頼者の半生を歌と映像で振り返る「セレモニービデオ」を制作する事業を始めた。葬儀や感謝の会などに活用することを想定している。制作費は1本約100万円と値は張るが、売上金は、経費を除いた全額を視覚障害者施設に寄付。人生の最後に社会貢献してもらおう。

（丹下信之）

売上金障害者施設に寄付



セレモニービデオ完成を喜ぶ生沼さん（中央）を囲む古屋さん（左）とドローン撮影を担当した中島さん（南足柄市で）

依頼者取材し作詞・作曲 ■ ゆかりの土地 空撮

事業を企画したのは財団理事長の古屋富雄さん（66）。古屋さんが依頼者に半生を取材した上で作詞・作曲を行い、音楽仲間の方タリスト平野融さんが歌唱を担当する。ドローン操縦士の中島芳男さん（62）（小田原市）が、依頼者にゆかりのある土地を空撮して思い出深い映像に仕上げる。

事業を発案したきっかけは、古屋さんの知り合いの農業生沼仁さん（77）（南足柄市）からの依頼だった。古屋さんが、今年8月に亡くなった、生沼さんの親友にまつわる楽曲を作り、それを聞いた生沼さんが感激し、「自分の曲も作ってほしい」と頼んだ。

生沼さんは長く農協理事を務めるとともに福祉施設に土地を寄付し、現在はこの施設の理事を務める。登山が趣味で、70歳直前にエベレスト登山にも挑戦。消し炭で描く絵も達人級だ。古屋さんは快活な人柄の生沼さんについて「良く働き、良く飲んだ」「俺の人

生、人のため」「そんなことが口癖だった。親分肌のあなたです」とつづり、映像では、高校時代の写真、生沼さん夫妻のツーショットを使用。生沼さんの自宅上空から見下ろした風景や地元の神社、菩提寺も撮影し、フィナーレはドローンを上空に舞い上がらせて「生沼さんが天から見守る」様子を演出した。

作品を見た生沼さんは「感謝感激。自分の生きざまを描いてくれた。生きることに張り合いができた。葬式が楽しみだ」と笑う。80歳までに生前葬を開いてビデオを流し、お世話になった人に感謝の気持ちを伝えたいという。古屋さんは「ビデオ制作を通じて、多くの人に余生を元気に過ごすしてもらいたい」と話す。財団は「セレモニービデオ」の名称で商標登録出願中。事業を成功させ、寄付文化を広めたいという。問い合わせは古屋さん（09・0・7849・9200）。